

群馬県立尾瀬高等学校の湿地に関わる取り組みについて

Oze high school studies of wetland

○新井梓、○小林雪菜、○松本龍、○山田梨加（群馬県立尾瀬高等学校自然環境科 1 年）

*Azusa Arai, Yukina Kobayashi, Ryu Matsumoto, Rika Yamada (Oze High school)

ozehs-01@edu-g.gsn.ed.jp

(1) 群馬県立尾瀬高等学校の概要と教育目標について

本校は群馬県の北東部に位置し、本州最大の高層湿原を有する尾瀬国立公園まで車で 50 分程度の場所にある。平成 8 年度に全国に先駆けて自然環境科を設置した。「自然との共生を図ることのできる人づくり」を教育目標に掲げ、知識だけに頼らず、豊かな自然の中での体験を通して人と自然との関わりについて考え、様々な出会いを通して人と人とのつながりの大切さを学び、コミュニケーション能力や自己表現力を高め、実社会で通用する力を身に付けた人を育成している。なお、自然環境科は地元の家庭にホームステイする制度を設け全国から生徒を受け入れている。

(2) 1 学年の実習について（テーマは「知る」）

大学教授やネイチャーガイドなど外部講師を招いて尾瀬や武尊山、さらに県有施設（昆虫の森、自然史博物館、天文台など）で自然観察や見学をすることで、多様な自然や人の価値観、多面性に触れ、自然環境に対する興味関心を高める。特に尾瀬では多様なフィールドがあること、湿原の微地形によって多種多様な植物が混在しているなど特徴的な自然環境について学ぶ。

(3) 2 学年の実習について（テーマは「調べる」）

グループで自然環境調査や環境測定（植物・ほ乳類・鳥類・積雪・水質・大気など）に取り組み、結果（データ）の分析を通して、物事の多面性を理解し、自分の考えを持つことや、状況に合わせた判断、討論することの重要性を理解する。特に尾瀬ヶ原での水質調査では河川や池塘など狭いエリアの中で pH や EC、DO などが異なる多様な水環境が存在していることを学ぶ。

(4) 3 学年の実習について（テーマは「伝える」）

自然観察会でのインタープリテーション（自然解説）やキャンプなどの自然体験活動、環境系のボランティア活動など多様な学習を通して、人と自然との関わり、人と人との関わりについて理解を深め、インタープリテーション能力やプレゼンテーション能力を高める。中でも尾瀬ヶ原では小学生を対象にした自然観察会を行い、自然の素晴らしさを伝える実習を行う。

(5) 課外活動や今後の展望について

本校には「調査・研究」「体験・交流」と 2 つの柱で活動する理科部があり、尾瀬でもニホンジカ調査、大清水湿原調査を行っている。前者はライトセンサス調査により尾瀬ヶ原におけるシカの出現状況について調べ、フィールドサイン調査によりシカが湿原へどんな影響を与えているかを調べている。後者では過去にミズバショウが群生し、優れた景観を有していた大清水湿原において、シカの採食などにより激減してしまったミズバショウをどのように復元していくか、その手立てを調査研究している。

ほかにも、谷津干潟に面する千葉津田沼高校生物部との湿地交流事業、渡瀬遊水池での野鳥観察など湿地に関わる活動を行っている。今後も湿地に関わる取り組みを推進していきたい。

キーワード：尾瀬、環境教育、自然との共生、自然体験、ニホンジカ